

伊勢本街道を歩こう

明和9年(1772)3月、松坂の国学者、本居宣長は10日間に渡って吉野や明日香、桜井を巡行する旅をし、紀行文『菅笠日記』(すがかさのにき)を著しました。松坂から行きは「あを越え」と呼ばれた「初瀬街道」を辿り2日目の3月6日に宇陀市榛原の萩原宿で泊まり、帰路にも8日目の宿を萩原の同じ旅籠でとっています。翌日は雨の中を「赤埴越え」と呼ばれていた伊勢本街道を約9里半(38km)歩き国境を越えて石名原(現在の津市美杉町石名原)で宿泊しています。ほぼ本マップの範囲と重なりますので8日目の大神神社から9日目の現代語訳を読んでみましょう。

■三月十二日(第8日) 見瀬、慈明寺、耳成山、大御輪寺、大神神社、初瀬、萩原

《前略》神殿はなく、奥にある木の多く繁った山を拝みました。拝殿はいかめしく立派で、禰宜や巫(かんなぎ)などの人々が多数おり、うちふる鈴の聲も神々しく聞こえます。そこからは元の道に戻らず、初瀬の方へ直接出る細道があり、山の崖伝いを行って金屋というところに出ました。奈良から初瀬へ通う大道です。ここから初瀬川の川辺を歩きました。敷嶋の宮の跡はこのあたりと聞き、とかま山もこの道からは間違いもなく進行方向に高く見えています。《中略》

今夜はもう一度萩原の里で、前に泊まった家に泊まります。

萩原からの帰路は往路とは道をかえ、通ったことのない赤羽根越えという路をとろうと相談して従者の男にそういと、彼は頸をふって、「とんでもない、問題の道は険しい山をいくつも越えるので、中でも飼阪(かいさか)と櫃坂(ひつさか)というひどい坂があり、しかも明日はあめもふりそうで、そうすると道まで悪くなりそうですよ。おまえ様方、どうしたら楽に越えられると考えるのですか。そんな無茶は止めなさい」と言います。それをきくと、ではどうしようと皆気が弱くなって始めの意欲がなくなりました。《後略》

■三月十三日(第9日) 萩原、石割坂、田口、桃俣、菅野、石名原

雨がそぼふる中、夜が明けないうちに、おそろしいという道へ出発しました。この里から右へ分かれて行きます。今朝は少し気分がよくないので、これからの山路の具合がどうかと心配です。ここから室生はごく近いと聞いていますが、雨がひどく降って道も悪く、お参りは中止しました。萩原から最初の石割坂を越える道がけっこう遠く田口まで三里半、田口から山をいくつも越えて桃の俣まで二里、そこから山を越えて菅野まで二里です。多気までさらに四里で、間に大和と伊勢の国境があります。今日、何とか多気まで行きたかったのですが、雨がひどく風も強く、山の上をゆく時はみの笠も吹きちぎられそうで、うかうかすると谷底に転げ落ちそうな強風です。その上、先には難所として有名な飼阪があり、今日は絶対に無理と判断して手前の石名原に宿をとりました。

萩原を出てどこも同じ山の中で、何の見どころもありません。それでも、桜は沢山あって盛りでした。というものの、天気が悪くて気分も辛く、何も心に残らず和歌もまったく詠めないままひたすら歩きました。

往路と違う道を帰りたいという欲求は今の旅人も変わりませんが、雨の伊勢本街道を歩くのはずいぶん決心が必要です。3月12日の夜の会話は戒言という仲間の僧の強気なひとことで決行するようになりました。しかし、翌13日の記述は極端に短く、原文ではたった530字しかありません。あまりに大変で疲労も加わり、メモをとり明確に記憶に残すこともできなかつたと推測します。数百メートルの上り下りの山道の40キロ弱は、たとえ天候がよくても健脚者が難儀して越える距離で、まして記述の天候では雨具と足ごしらえが現代の登山用具でも

大変そうで、宣長一行には遭難の危険さえあったでしょう。飼坂を翌日にまわしたのは賢明でした。それでも宣長はダウンして翌日は駕籠で山越えをし、上多気からは伊勢本街道をはずれ雲出川沿いに下り、松坂へ帰り着きました。

私たちも何度か雨の日に峠越えをした経験があります。特に旧道が多く残る伊勢本街道は足元も悪く大変な思いで歩きました。ここからは基本となるコースと伊勢本街道ならではの注意点を書きとめておきます。コースは令和3年9月現在の公共交通機関の時刻表を利用して日帰りコースをつないで伊勢をめざすこととしました。榛原から山粕、土屋原、菅野、上多気には民宿などがあります。バス路線から大きくはずれる区間は1泊2日でコースをアレンジされるのも良いでしょう。歩く早さの目安を毎時3キロで、余裕を持って時間設定されることを望みます。

モデルコース(=列車/バス/…徒歩 バス時刻等は2021.9.26現在)

1日目 桜井駅 … 長谷寺 … 榛原萩原 … 自明不動堂 - 榛原駅
9:00 11:30~12:30 15:00 16:00 16:36
*国道165号は幅員が狭く交通量も多いため歩行注意。時間表示～は昼食
*萩原からは帰りのバス時刻に気をつけて歩いてください

2日目 榛原駅 - 自明不動堂 … 諸木野 … 上田口 … 山粕東口 - 名張駅
10:35 10:45 12:30~13:00 15:00 16:52 18:13
*バス時刻優先のコースです。榛原駅からタクシーで行くと自由度大
*諸木野～山粕間は大きくバス路線から離れます
*赤埴から山粕東口まで約13km公衆WCがありません

3日目 榛原駅 - 山粕東口 … 桃俣 … 菅野 … 佐田峠 … 敷津 - 名張駅
10:35 11:18 12:20~12:40 14:20 16:30 17:10 18:13
*御杖村内では適当なバスの便なし。道の駅前の敷津バス停にはお早め
*名張駅9:36発のバスを利用すれば20分早く出発できます

4日目 名張駅 - 敷津 … 伊勢奥津 … 上多気 … 比津峠 … 比津駅 = 松阪駅
10:03 11:04 13:00~13:30 15:30 17:00 17:22 18:41
*県境を越えてからは「みえの歴史街道」等のマップをご覧ください
*上多気で街道を離れ北畠神社から川沿いに下り、左折し比津峠を越える

5日目 松阪駅 = 伊勢奥津駅 … トンネル通過 … 道の駅 … 上仁柿 … 柿野 - 松阪駅
9:38 11:02 12:00~12:30 18:08 18:50
*4・5日目はバスを自由に選べません。上多気の宿泊施設は1軒のみ

6日目 松阪駅 - 柿野 … 大石 … 津留の渡 … 相可 … 土羽茶屋 … 外城田駅 = 松阪駅
8:56 9:37 10:30 12:00~12:30 17:29 17:48
*参宮線利用でコースの自由度は広がります。大石～相可間WCなし

7日目 松阪駅 = 外城田駅 … 柳の渡 … 外宮 … 内宮 … 内宮前 - 宇治山田駅
9:24 9:40 13:30~14:30 16:00~17:00 17:30 17:47
*WCは田丸城の周辺にあります。お昼頃に宮川を渡ります

発行: 歴史街道推進協議会 編集: 紀伊半島交流会 伊勢街道分科会
協力: 奈良県・三重県・桜井市・宇陀市・曾爾村・御杖村 発行: 2021.10.01